



ごみの出し方が市によってちがうのはなぜ

市がそれぞれのルールでやっているから

あなたのおうちでは、ごみを出すときに、決められた曜日に、決められた方法で、種類ごとに分けて出しているでしょう。このように、ごみを種類別に分けて出すことを、分別といいます。

分別の方法は、市町村によってそれぞれちがっています。どのように分別して収集するかは、ごみを収集する市町村にまかされているのです。それぞれの市町村が、それぞれの事情に応じて、収集方法を決めているので、ごみの出し方が、市町村によってちがうわけなのです。

たとえば、A市は「燃えるごみ」と「燃えないごみ」の二つに分けているのに、B市では「ふつごみ」「かん」「びん」「乾電池」「そだごみ」など、細かく分けていたりします。さらに細かく分けるように、決めている市もあります。

分別してごみを出すわけ

市町村がごみの分別に熱心なわけは、ごみの量が多すぎて、ごみを捨てる場所に困っているからです。今では、日本中のごみ捨て場が、いっぱいになりそうなのです。新しいごみ捨て場は造りにくいし、造ると大金がかかるという事情もあります。

それならば、「利用できるごみは、生かして再利用しよう」というわけで、リサイクル運動が始まったのです。その第1歩として、紙や金属など「利用できるごみ」と、「利用できないごみ」を分別して、出すようになったのです。

あなたも、限りのある資源やエネルギーを節約するために、リサイクルに協力しましょう。

（監修・青木 国夫）

